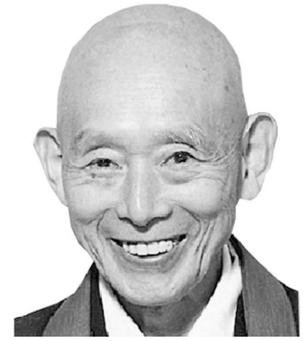


# 校長室より

暗唱だより  
令和6年7月  
第三吾嬭小学校長  
川中子 登志雄



藤本幸邦さん

今年<sup>ことし</sup>は梅雨<sup>つゆ</sup>に入る<sup>はい</sup>のが遅<sup>おそ</sup>かったですね。予報<sup>よほう</sup>では、今年<sup>ことし</sup>の梅雨<sup>つゆ</sup>は短<sup>みじか</sup>く、暑<sup>あつ</sup>くなる<sup>あつ</sup>のが早<sup>はや</sup>いとのこと。熱中症<sup>ねつちゆうしやう</sup>に気<sup>き</sup>をつけて過<sup>す</sup>ごしましょう。

6月<sup>がつ</sup>は、5年生<sup>ねんせい</sup>と福島県<sup>ふくしまけん</sup>の那須甲子<sup>なすかし</sup>に、6年生<sup>ねんせい</sup>と栃木県<sup>とちぎけん</sup>の日光<sup>にっこう</sup>に行ってきました。大自然<sup>だいしぜん</sup>の中で、普段<sup>ふだん</sup>体験<sup>たいけん</sup>のできない様々<sup>さまざま</sup>な活動<sup>かつどう</sup>を行いました。楽しい思い出<sup>たの思い出</sup>がいっぱいできました。そんなこともあって、6月中<sup>がつなか</sup>は校長室<sup>こうちやうしつ</sup>を留守<sup>るす</sup>にすることも多く、暗唱<sup>おお</sup>にチャレンジ<sup>あんしやう</sup>したかったけれどできなかつたという人も多<sup>ひと</sup>いと思います。7月<sup>がつ</sup>も夏休み<sup>なつやすみ</sup>が始<sup>はじ</sup>まりますので、課題<sup>かだい</sup>を覚え<sup>おぼ</sup>たらどンドン挑<sup>ちやうせん</sup>戦<sup>せん</sup>に来てください。

さて、7月<sup>がつ</sup>の課題<sup>かだい</sup>は…

## 「はきものをそろえる」

第三吾嬭小学校<sup>だいさんあづましようがっこう</sup>の「三吾あいことば」<sup>さんあづ</sup>には、「かかとそろえ」という合<sup>あ</sup>い言葉<sup>ことば</sup>があります。この合<sup>あ</sup>い言葉<sup>ことば</sup>には「くつをしまうときは、かかとをそろえておこう」と「整理整頓<sup>せいりせいとん</sup>をきちんとしてしよう」の二つの意味<sup>いみ</sup>がこめられています。以前<sup>いぜん</sup>、お客様<sup>きやくさま</sup>がいらっしゃったとき、皆さんの靴箱<sup>くつばこ</sup>を見て、「こんなにきれいにくつがそろえてある学校<sup>がっこう</sup>は、今まで見たことがありません。」<sup>い</sup>と言<sup>まいとし</sup>っていたいたことがありま<sup>だいひやういん</sup>す。毎年<sup>まいとし</sup>、代表委員<sup>だいひやういん</sup>の皆さんもキャンペーン<sup>みな</sup>をはって、みんなができるように声<sup>こえ</sup>をかけてくれています。

さて、この「はきものをそろえる」という詩<sup>し</sup>を書<sup>か</sup>いたのは、藤本幸邦さん<sup>ふじもとこうほう</sup>というかたです。藤本さん<sup>ふじもと</sup>は、明治43年<sup>めいじ</sup>8月29日<sup>ねん</sup>・長野県<sup>ながの</sup>生まれで、長野市<sup>ながの</sup>にある生家<sup>せい</sup>のお寺<sup>か</sup>の住職<sup>すまわらい</sup>をついだ方<sup>かた</sup>です。戦後<sup>せんご</sup>、戦争<sup>せんそう</sup>で親<sup>おや</sup>がなくなつてしまつた子どもたちを助<sup>たす</sup>ける活動<sup>かつどう</sup>をしました。また、アジア難民救<sup>なんみんきゆうえん</sup>援<sup>えん</sup>などの国際ボランティア活動<sup>こくさい</sup>もおこない、平成6年<sup>かっどう</sup>にカンボジア<sup>へいせい</sup>に小学校<sup>ねん</sup>に校舎<sup>がっこう</sup>をおくつたりもしました。

この「はきものをそろえる」という詩<sup>し</sup>は、藤本さん<sup>ふじもと</sup>が、戦争<sup>せんそう</sup>で親<sup>おや</sup>がいなくなつた子<sup>こ</sup>たちを育<sup>そだ</sup>てていたとき、玄関<sup>げんかん</sup>で子供<sup>こども</sup>たちが履<sup>は</sup>き物を脱<sup>ぬ</sup>ぎ散<sup>ち</sup>らかしているのを見てとても悲<sup>み</sup>しい気持ち<sup>な</sup>になり、「このままでは、また戦争<sup>せんそう</sup>が始<sup>はじ</sup>まってしまう」と思<sup>おも</sup>い、子供<sup>こども</sup>たちに知らせるために書<sup>か</sup>いたものだそうです。戦争<sup>せんそう</sup>を始<sup>はじ</sup>めてしまう人間の弱<sup>にんげん</sup>さは、履<sup>は</sup>き物をそろえる心<sup>こころ</sup>がなくなることとつながっている。今<sup>いま</sup>、世界<sup>せかい</sup>では、ウクライナやイスラエル・ガザ地区<sup>ちく</sup>だけでなく、戦争<sup>せんそう</sup>や紛争<sup>ぶんそう</sup>が続<sup>つづ</sup>いている国<sup>くに</sup>がたくさんあります。戦争<sup>せんそう</sup>のない世界<sup>せかい</sup>をつくるために、私<sup>わたし</sup>たちにできることは何<sup>なに</sup>でしょう？ 皆<sup>みな</sup>さんが、自分<sup>じぶん</sup>のこととして考<sup>かんが</sup>えてくれることを願<sup>ねが</sup>います。